歴史地震
第38号 (2023) 231頁

［講演要旨］

『躍進の城崎温泉観光圖』に描かれた町並み

松井敬代(豊岡まちなみ連盟)

§1. 北但馬地震(北但大震災)からの復興

1925 年 5 月 23 日午前 11 時 10 分頃に兵庫県但馬地方を震源とする地震が発生し,震源に近い兵庫県城崎郡豊岡町,城崎町,港村(いずれも現豊岡市)に大きな被害が及んだ.なかでも温泉街として知られる城崎町では,昼食の準備時間帯でもあったため火災によって温泉街の 90%以上を焼失した. また人口の約 8%を失うという大きな被害を受けた. その約7割が昼食の準備を担っていた女性で, 湯治客も60名が亡くなっている.

震災復興にあたって,町並みを一からつくるために復興計画(都市計画)を策定した. 道路の新設および拡張と直線化, 木造旅館の再建を図るため防火地帯の設定と鉄筋コンクリート造建物の配置, 大谿川の改修などである.

温泉街の中央を流れる大谿川は川幅が狭く川底も浅かったため, 雨がふるたびに頻繁に氾濫していた. これを掘り下げて川幅を拡げ, その土砂で地盤を嵩上げし, 4km 上流にある玄武洞の崩落した玄武岩を川舟で運び入れて石垣状に積み上げ川護岸とした. 落橋した木橋も鉄筋コンクリート製の弓形橋とした. 最近の史料調査によって, 大谿川上流の流路変更と直線化も図っていることもわかった.

国県からは, 再建にあたって木造旅館を含む全ての建物を鉄筋コンクリート造で建築するよう指導があったが, 地震前の城崎らしい景観を守るため木造 2.3 階建ての旅館は木造で再建し, 6 ヶ所あった外湯(公衆浴場)や駅, 町役場, 警察署, 郵便局, 小学校などの公共的な建物を鉄筋コンクリート造とした.

最近になって見つかった「城崎町復興計画圖」にある防火地帯とした場所には, 上記の公共施設を点在させ, いくつかの民間建築と, さらに通りに面する連続した建物を鉄筋コンクリート造としたことが判明した.

§2.『躍進の城崎温泉観光圖』とは

城崎文芸館蔵の『躍進の城崎温泉観光圖』は, 昭和初期に活躍した観光鳥瞰図絵師, 前田虹映(1897-1945)が1938年(昭和13)に描いたものである. 彼は「大正の広重」とも称された鳥瞰図絵師吉田初三郎の一番弟子といわれた人物で, この図は後年独立してから描かれた.

地震によって落ち込んだ浴客を回復させるため, 当時の城崎町商工会が依頼して描いてもらった鳥瞰図で, 当時流行った観光パンフレットの原図と考えられる絹本彩色の鳥瞰図である. 城崎温泉を中心に円山川と玄武洞や日本海, 遠く富士山や伯耆大山なども描かれている.

詳細に描かれている城崎温泉街を見てみると, 町並みとともに震災翌年の 1926 年に開設された城崎スキー場, 円山川に造られた水上飛行機による遊覧飛行を目的とした城崎飛行場, 温泉寺などの寺社や湯気を上げた外湯などが描かれている.

建物に着目すると, 城崎駅や小学校, 町役場や警察署, 郵便局などが鉄筋コンクリートで描かれており, 木造建築の中に鉄筋コンクリート造の建物が点在していることがわかる. また, 通りに面して連続して建てられた鉄筋コンクリート造の一般住居も描かれている. 前述した城崎町復興計画圖の防火地帯とされる場所には, 木造建造物に混じって防火帯としての鉄筋コンクリート造の建物が配されていることが確認できる.

なお, この図に描かれている来日岳山岳スキー場は実際に開設された場所が異なることや弓形橋が平橋として描かれるなど, 前田虹映が実際に足を運んで描いたかは明確ではないが,温泉寺の伽藍配置がしっかりと書き込まれていることや大谿川のパラペット(特殊堤)までが描かれるなど, ほぼ忠実に再現された鳥瞰図であることがわかる. 100 年近く経った今でも, 改修や改築、また撤去されている建物もあるもののこの町並みがよく残されており, 城崎温泉の変わらない景観となっている.

§3. 新出の史料から

震災前、城崎温泉の外湯は6ヶ所であった. 1962 年に町民専用の浴場として, さとの湯が新築され, 現在のように 7 ヶ所の外湯を有する温泉街になった. 半壊だった地蔵湯を除いて全て焼失してしまったが幸い源泉に被害はなく, それまでの場所で再建されることになった. まず倒壊を免れた地蔵湯の上等浴場の改修から始められた. 地蔵湯は地震の 5 年前に新しくしたばかりだったため, 被害が少なくて済んだようだ.

外湯の再建にあたっては, これらを防火帯とすべく国から鉄筋コンクリート造で立て直すよう指導があったため, まず 1928 年(昭和 3)に一の湯と曼陀羅湯が和風の外観をもつ鉄筋コンクリートで再建された. ほかの 3 ヶ所の外湯も同様に鉄筋コンクリートでの再建が計画されていたが, 新たな史料によると地域住民から建設反対の陳情書が出され, 鴻の湯, 御所湯, 柳湯は木造で再建されたことが判明した. この図では外湯はすべて純和風に描かれており、その区別はつけ難い.